

倫理 研究課題 <西洋04>

教科書：p ～ 資料集：p ～ ノート：p ～

●資本主義経済の発達と、「資本主義の精神」の“墮落”

①産業革命を契機に資本主義経済は本格化し、やがて国内市場を飲み込んだ大企業は、さらなる市場を求めて植民地経営へと乗り出していく（帝国主義への変化）。

②大企業に成長した商工業者たち（「資本家」）は「救いの確証を得た」とうぬぼれ、「救われていない」労働者に対して冷酷な存在に変貌した（残虐に植民地を支配するようにもなった）。

③利潤は「隣人愛の結果としての褒美」ではなく「追求すべき目的」に変わり、利潤獲得のためならどんな手段も使うようになった（倫理性の欠落＝単なる「金儲け主義」への墮落）。

④M・ウェーバーは、「20世紀末ごろの経済は、精神なき専門人、心情なき享楽人（大衆）によって非人間化した鉄の檻になっているだろう」と述べ、資本主義経済の行く末を案じた。

●最近の新しい経営学（企業倫理）

①P・ドラッカー『マネジメント』：企業経営において利潤追求よりも顧客満足を重視する

②松下幸之助（パナソニック創業者） （CS=Customer Satisfaction）

③企業の社会的責任（CSR=Corporate Social Responsibility）

企業は利潤追求（株主への責任）だけでなく（それを無視することはできないが）、

環境保全や福祉の充実などの社会的責任をも負っている、という自覚

④日本で2014年に「人を大切に作る経営学会」設立（<http://www.htk-gakkai.org/>）

★「資本主義の精神の墮落」を感じる場面として、私たちの身近に存在することは？

.....

.....

.....

★企業の社会的責任に基づく行動として、私たちの身近に存在することは？

.....

.....

.....